



入船だより

横浜市立入船小学校
校長 松本 久美子
学校だより 5月号
令和8年5月1日発行



本物の体験を



校長 松本 久美子

新年度が始まって1か月が経とうとしています。最近では梅雨を感じさせるような雨が降ったり、初夏のような日差しになったりすることもありました。学校では新生活に慣れてきた子どもたちの元気な声が毎日響いています。

入船小学校に赴任して、新しい人・もの・こととの出会いをたくさん経験しています。

雨の日でも風の強い日でも子どもたちの登校の安全を見守ってくれる見守り隊のみなさん。校門まで付き添いをしてくれる保護者の方。見えないところで学校を支えてくださるPTA役員の方々、後援会のみなさま。ピンク色の花の後は鮮やかな緑の葉を茂らせている桜の樹。登校する子どもたちを真っ先に迎えるチューリップ（見守り隊の山崎さんが植えてくれています）。池にひっそりと、でも力強く浮かぶ蓮の花。その隣でたくましく生きるザリガニ。潮田地区少年野球リーグの開幕パレード。そして、「おはようございます！」と校門で元気に挨拶を返してくれる子どもたち。入船小を良くしたいと思って仕事をする教職員たち。どれをとっても「入船小学校に来られて良かった」と思える出会いです。

これから運動会、宿泊行事の準備、たてわり活動も始まります。新たな体験にわくわくします。一つひとつの活動の意味を考え、めあてをもって取り組み、ただ「楽しかった」で終わるのではなく「〇〇の力がついた」「△△ができるようになった」と子どもたちが感じられるような学校行事や活動を考えていきたいと思えます。

近年は、インターネットが普及し、画面を通していろいろなものが見られるようになりました。遠い国で起こっていることも手に取るようにわかります。見知らぬ人とつながることもできます。でも、それはどこまでいっても画面越し。完全な実体験とは言えません。

学校で過ごす子どもたちには、自分の手で触ったり、体を動かしてやってみたりする本物の体験をさせたいと思えます。

